



【小学1年生・2年生】

特選 さいごまでにげられるかなおに(ご)つ(り)

城東小学校1年 山田 哲平

(評) おになつた子がにげるなかまをおいかけ、だれかをつかまえるとおにを

かわる。一生けんめいに走るすがたが目にかぶ。「にげられるかな」の「ら」この一字がぬけていたら、特選にはむり。正しいことばが、うまくつかわれていて楽しい句です。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

特選 ていねいにじをかくことはたいせつだ

城東小学校1年 宮川 杏莉

(評) 字をかくことが好きなのでしょう。一字一字ていねいに、うつくしくしつ

かりとかく。これは基本です。せんせいやお友だちにお手かみを出すときも、このことをわすれないでください。きちょうめんなせいかくなのでしょう。うれしくおもいます。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 青空がぼくらのことを見ているよ

城北小学校2年 北村 郁人

(評) 物事を良くかんさつしているのがわかります。晴れた空、雨の空、くもり

空、それぞれ表じようがかわります。天高くも一つない青空、きょうもべんきように、スポーツにとがんばって、青空とたのしいおはなしを、ゆつくりいたしましょう。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 あきの日にどんぐり見つけこまにした

城陽小学校2年 川田 歩武

(評) えん足に行ったときにひろったどんぐり。大きい、小さい、ほそ長いも

の。形はさまざまだが、どれも大切にしまつてある。中でも一番大きくて、かつこいいどんぐりをこまにした。よく回る、たからものである。えがおが伝わってきます。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 元気かなてんこうしてつたお友だち

城東小学校2年 中田 亜沙美

(評) クラスの中で仲良しだったお友だち。ふと思ひ出す。うんどう会のことや

つう学道でのこと、楽しい思い出がいっぱい。今どうしているのだろう、新しいお友だちはできたのだろうか？お手紙を書こう。友だちを気づかうやさしい句に出あいました。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 ひるやすみおおなわしたよたのしいな

平田小学校1年 中村 一心

(評) 久しぶりにはれた冬の日のごご。昼食がおわると一せいにグラウンドへ。

友だちの一声でおおなわとびがはじまった。まわす人、とぶ人、こうごにか
わる。チャイムがなりいそいできようしつへ、体がポカポカになった。たの
しい昼やすみだった。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)



佳作 かがくはねいろいろしれてたのしいな

若葉小学校1年 東條 翔太

佳作 かなしいなおるすばんってふあんだな

平田小学校1年 村林 華稻

佳作 おかあさんいつもやさしいだいすきよ

平田小学校2年 塩野 里桜

佳作 1ねんせいかんじひらがないっぱいだ

若葉小学校1年 野村 優衣

佳作 うれしいないつもとちがういちにちだ

稲枝北小学校1年 黒木 優衣

佳作 あたらしくカタカナかんじはじまった

城東小学校1年 音田 幸真

川 柳

佳 作

カタカナのハヒフへホがねむずかしい

城東小学校1年 田端

蓮

佳 作

がっこうであきをみつけたうれしいな

城東小学校2年 川村

一向



入 選

しゃしんにねたのしかおがうつたよ

高宮小学校2年 中村

奏仁

入 選

そろばんのけんていしけんがんばった

城東小学校2年 蛭子野

凜子

入 選

おてっだいおうちのひともよろこぶね

城東小学校2年 村木

夏葉

入 選

スポーツのあきでいっぱいはしろうよ

城陽小学校1年 巴

佐以子

入 選

どんぐりにかおをつけたらかわいいな

城陽小学校2年 疋田

桃花

入 選

ひるやすみいつもあそんだくらすのこ

平田小学校1年 前田

穂乃華

川 柳

入
選

おんがく会ラララと歌ってたのしいな

城陽小学校2年 松本

耀子

入
選

はれの日はそとであそべるたのしいな

城陽小学校2年 北川

圭介

入
選

うんどう会あおぐみ三いでどうメダル

城陽小学校1年 寺村

元

入
選

ゆきあそびかまくらづくりたのしいな

城北小学校1年 宮本

竜来

入
選

わたしはねごはんがいつもおいしいな

平田小学校1年 日夏

柚宇

入
選

おかあさんきょうのおかずはなんですか

城南小学校1年 大森

結芽



【小学3年生・4年生】

特 選 消しかすが教えてくれるがんばりを

旭森小学校3年 井上 璃子

(評) 毎日机にむかって、がんばっているようですが、目の前にあらわれます。何でもない消しかすに気がついたのがすばらしいと思います。まわりにたくさん句の材料がころがっています。楽しい句を作ってください。

(彦根文芸協会 森口 ますこ)

特 選 80m走一位になったぞよっしゃあ

城陽小学校4年 宮崎 隼 駆

(評) がんばりましたね。一位ですか。いっぱい練習したのでしょうか。自信とこれからの希望、がんばりが「よっしゃあ」の一言にまつているように思えました。話し言葉は句の中にはあまり入れませんが、私は「よっしゃあ」が大好きです。

(彦根文芸協会 森口 ますこ)

準特選 宿題だドリルにプリント対戦中

稲枝北小学校4年 林 沼 和

(評) 学校では、友だちと遊んだり運動したり楽しいのに、家に帰ると山のような宿題と対戦ですか？ いやですね。パツパツといやな宿題は早くすませて、家族とゆっくり夕食を食いたいですね。ガンバレ……

(彦根文芸協会 森口 ますこ)

準特選 くりごはんとてもおいしいなぜだろう

城西小学校4年 高野 心 花

(評) くりは皮がかたくてむくのがたいへんです。一個づついいねいに皮をむく、お母さんの苦勞が味になってあらわれるのでしょうか。みんながよろこんで食べるのを思いながら料理するお母さん、「ありがとう」といいますよ。

(彦根文芸協会 森口 ますこ)

準特選 みずたまり雨がポツポツ音がする

城東小学校 4年 北川 葉菜

(評) 水たまりに雨がはねるのは、気がつきませんが、その雨が楽しく音を出して

いるのは、気がつきません。いやな雨の日でも楽しくなります。こまかいところまで観察するくせを、つけてください。すばらしい句をたくさん作ってください。

(彦根文芸協会 森口 ますこ)

準特選 あいさつは笑顔を生み出すまほうだよ

城西小学校 4年 吉永 美咲

(評) あいさつは本当にたいじです。「こんにちは」と言っておこる人はいないし、

よるこんで「こんにちは」と返事をしてくれます。話をするきつかけとなるまほうです。まほうのことばだという事によく気づきました。ただ、中句が8文字になっているのがざんねんです。「を」をとって「笑顔生み出す」とすると7文字になりますよ。

(彦根文芸協会 森口 ますこ)

佳作 まいにちがえがおがいいねせかいじゅう

亀山小学校 3年 織田

湖乃愛

佳作 じきゆう走ぜったい一位とってやる

城東小学校 3年 藤田

あかり

佳作 みずたまりきれいなにじがうつてる

城北小学校 3年 萩原

悠喜

佳作 きれいだなあきのかげえだゆうやは

城北小学校 3年 田中

美羽

佳作 たたかいは勝ち負けあいの楽しさだ

城陽小学校 4年 山崎

健心

佳作 五センチのだんさですべりおとつと

若葉小学校 3年 権代

優紗

佳
作

ながれ星満月の横落ちてゆく

城西小学校 4年

大谷

将武

佳
作

すこしずつねむけがおそうごじかんめ

高宮小学校 4年

中村

天音



入
選

ひまわりについて見せたいゆきだるま

城西小学校 3年

徳永

明李

入
選

ともだちとみんななかよくあそぼうよ

城東小学校 3年

藤野

秀和

入
選

もう五時だ気付けば空はみかんいろ

城南小学校 3年

大橋

美心

入
選

ふゆからねはるにかわるのたのしみだ

城北小学校 3年

塚田

真生

入
選

あきがきたあしもとみてよドングリだ

城北小学校 3年

門間

心咲

入
選

ともだちとあきにはもつとしやべれるぞ

城北小学校 3年

木戸

理久

入 選 あきのひはつめたくなるがきもちいい
城北小学校3年 宮島 巧

入 選 父さんとテニスをしたよおもしろい
平田小学校4年 佐野 こはな

入 選 そとはゆきこたつポカポカあったかい
城陽小学校4年 高田 琉輝

入 選 台風のおわったあとにはじかかる
城西小学校4年 西田 妃那

入 選 サッカーでしあいにかつぞぜったいに
城陽小学校3年 近藤 廉

【小学5年生・6年生】

特 選 音楽会もつきんてつきんおどってる

城西小学校5年 白井 乃愛

(評) 奏者そうしやに取っては真けんそのもの。だが、見ている側からすれば、実にゆかいである。それを、もつきんてつきん「おどってる」と作者は言う。丸い玉のついた棒(マレット)などで打って鳴ならす姿を、ユニークな手法で巧たかみに表わしています。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

特 選 夜の空星が光って笑ってる

城北小学校6年 木村 太一

(評) 凍ひや付くような冬の夜空。辺り一面星が輝いている。これを「笑ってる」と表現した。今日は、楽しいことがいっぱいあった。見るものすべて美しい。このまま、お星さまとしばらくお話を楽したのみましょうね。夜が更ふけてゆく。明るい一句になりました。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 よーい始め玉をはじいて計算だ

城東小学校 6年 池田 莉子

(評) 珠算の検定試験会場でしょうか。辺りは静まり返っている。昨夜、家族が眠ったあとも、何度も練習をしていた。先生の合図とともに、そろばんをはじく。しっかりとできた、さあ終了だ。何げなく詠んでいる中に、ねっれっ熱烈な意気込みが伝わってくる。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 いつもとはちがう自分になりたいな

城東小学校 6年 片岡 美紗都

(評) 朝学校へ行って勉強して、家へ帰るとすぐに塾が待っている。毎日このくり返し。来年は中学生、「勉強勉強」と母は言うけれど、もう少し自由がほしい。だれもが思っていることでしょうか。平凡な話しことばの中に、確りと思いがふくらみます。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 六年生母と背並ぶ成長期

城西小学校 6年 前川 悠真

(評) ついこの間まで、母と話をするとき見上げていた。ふと気が付くと母と同じ高さ、思わず笑顔になる。母はもちろんうれしそうだ。親は、子供の成長が何よりも楽しい。来年はすでに追い越していることでしょうか。親子の温かい会話がはずみます。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)



佳作 ゲームして後片付けはいつもパパ
城東小学校5年 宮崎 百々羽

佳作 声変わり音楽会で歌えない
城東小学校6年 永田 智之

佳作 どんぐりはだれがのっぽかせいくらぶ
城西小学校5年 山郷 里紗

佳作 テストの日満点とるとうれしいな
城西小学校6年 山口 蓮

佳作 テストでね百点とったらおおさわぎ
城北小学校5年 大塚 康太郎

佳作 春休み次の学年楽しみだ
若葉小学校5年 西村 拓夢

入選 寒い日は学校までが遠くなる
城東小学校5年 小川 真奈

入選 うんどうかいかけっこいちばんなれるかな
城西小学校5年 中川 瑠菜

入選 道路はねゴミ置く場所じゃないんだよ
平田小学校5年 堀尾 蒼真

入選 寒すぎて世界がおるえい画見た
若葉小学校5年 北川 統琉

入選 むしのこえそれはしぜんのオーケストラ
城北小学校5年 三保谷 幸翼

入選 チャイムなり授業が終わった給食だ
城西小学校6年 谷村 和奏

入選 クリスマス子供天国親地獄
若葉小学校5年 中道 結

入 選

秋の日に台風が来て大変だ

城西小学校 5年

久良木 律

入 選

温だん化地球があついと云っている

城東小学校 5年

大谷 志

入 選

宿題だ自由研究何しよう

城西小学校 5年

水田 和航

入 選

いわしぐもあおいおおぞらおよいでる

稲枝北小学校 5年

徳田 人磨



【中学生】

特 選

帰り道絵のことばかり考える

稲枝 中 学 校 匿 名

(評)

これから描こうとしている、または描き始めている絵のことが頭からはなれない。何かおかしい、どこかで間違っている。どうかすればもっと良くなるはずだ。友だちが、じゃ頼んだぞ、とか言っている。何のことだか分からないが、あそこはもつと濃い青がよい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選

空見上げうかぶ秋刀魚のにおいかな

南 中 学 校 1 年 文 室 友 輝

(評)

秋の青空。真っ青な空に浮かぶ雲。秋は食欲。秋刀魚がおいしい季節だ。だんだんと雲が秋刀魚に見えてきた。とうとうにおいまでしてきた。匂いまで、ひよっとしたら、味までというおもしろさ。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 理科室の水のいきおいすぎすぎる

稲枝中学校 1年 森野 天音

(評) 理科室と水のいきおい。こんなことが句になる。理科室の水がいきおいよ

く出てきて、ワア〜とおどろいた気持ちがよく分かる。理科室なんだから
水は計算どおり、静かに流れないといけないのだ。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)



準特選 かたこりがつらすぎるためびょういんへ

南中学校 2年 上田 一心

(評) すごく当然のことが書かれているのにおもしろい。本人は本当につらいの

だろうが笑えてくる。病院へ行って大した病気ではなかったのだろう。悩み
すぎていた自分を自分でもちよつと笑っているのだろう。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 吹奏楽トレーニングで筋肉痛

稲枝中学校 1年 大野 結夢

(評) 管楽器は腹筋背筋体力勝負だ。ピッコロだってバカにはできない。という

ことでトレーニングをする。新入生は文化系のオンガク部のつもりで入部し
ておどろく。肩こりがつらくなって病院にも行くのだ。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 むかい風自転車おして帰ってく

稲枝中学校1年 木村 百亜

(評) 冬の向い風はきつい。思い切りペダルをこいでも、過ぎてゆく足もとの石のようすが見えている。もう限界と、自転車をおりておして帰る。しかないのだけれどくやしい気もする。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 もうすぐで学年あがる一年生

稲枝中学校1年 薩摩 美文

(評) 中学一年生でしか書けない句だろう。去年は小学校の最高学年だったのにこの一年は一番下の学年で、部活も先輩たちについていくだけだった。けれど、もうすぐ学年が上がれば後輩が入ってくる。なにか楽しいではないか。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 どうしようなんてかこうかまよってる

南中学校1年 西村 南美

(評) はい、川柳を書きましようって言われて困っているようすがわかる。けど、ほかの何かを書くときにも同じように悩んでいることに気づく。読書感想文も、年賀状や手紙も、ちよつといやな人への返信も。まよってなやんで書き変えて、一周まわって、何でもない言葉が何でもないようにそこにある。自分が話したいことを話すように書いたら良い。言葉はおもしろい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)



佳作 中学校シャーペンだけでうれしいわ

稲枝中学校1年 寺田 芽惟

佳作 水泳後ねむ気をさそう国語だよ

稲枝中学校1年 川村 颯太

佳作 あめがふるなんでだろうかうれしいな

南中学校1年 善利 祐亨

佳作 あこがれるスパツときまるシユートにな

稲枝中学校1年 山内 梁麻

佳作 部活では先輩いるがのびのびと

稲枝中学校1年 荒見 宥大

佳作 ひまわりと背比べして負けました

中央中学校3年 北野 愛梨

佳作 下駄箱に秋風入り肌寒い

稲枝中学校1年 田口 輝之

佳作 秋の音耳をすませばにぎやかだ

稲枝中学校1年 五味 風香

佳作 まっくらなへやでだれかがわらってる

稲枝中学校1年 山本 玲奈

佳作 通学路あのなつかしい学校だ

稲枝中学校1年 山元 星渚

入 選

少しだけ景色がちがう帰りみち

稲枝中学校1年

川村

風生

入 選

ボールがね空のあなたへ消えてゆく

南中学校1年

疋田

幸志郎

入 選

愛犬よずっと子犬でいておくれ

鳥居本中学校1年

小堀

陽菜

入 選

教室の休み時間はコンサート

稲枝中学校1年

北村

杏樹

入 選

かがやきはいちばんぼしのほしになる

稲枝中学校1年

福島

結

入 選

人想う言葉はきつとこだまする

稲枝中学校1年

中村

慎之介

入 選

しんしんと静かにつもるしろすなだ

南中学校1年

古川

みさき

入 選

手をつなぎつくつてみようみんなの輪

稲枝中学校1年

井口

綾菜

入 選

きぶん良くそらを見てたらくもがゆく

南中学校1年

加藤

煌理

入 選

わすれてたつくえのおくになぞのかみ

南中学校1年

澁谷

帆南

入 選

にほんはつ10びょうきつてゆうめしだ

稲枝中学校1年

伊藤

優希

入 選

練習のせいかをいまだしてやる

鳥居本中学校1年

高橋

颯太

入 選

登下校毎日通る田んぼ道

稲枝中学校 1年

落合

萌

入 選

彦根城見なれてすごさ分らない

南中学校 1年

森

叶汰

入 選

いいひだなずっとへいわでいてほしい

南中学校 1年

長尾

莉菜



【総評】

二十二年度から始まった子ども文芸作品。今年も個性溢れる楽しい句が集まりました。「夏休み文芸ワークショップ」で毎年勉強している小学生たちは、川柳と俳句の違いが分かってきています。しかし、都合で出席していない子どもたちもおります。どんなに表現力豊かな作品であっても、五七五で詠まれていない句は、リズムが悪く残念な結果を招くこととなります。川柳は、「五・七・五」のリズムで人間をうたう詩のこととをいいます。これは基本です。

学校や学年によっては、同じような句が非常に多くなっています。標語を思わせるような句や、日記のように、ありのまま出来事を書かず、思いを川柳の言葉で挑戦してください。提出する前に、もう一度確認することを勧めします。書くことによっては、多くの言葉に出合い、多くの言葉を知り、少しずつ前進してゆきましよう。来年度は、若さ溢れる素晴らしい句を切望しております。

(彦根文芸協会

須田 さゆり)